

第2回 第3次豊川市食育推進計画策定委員会 主な意見一覧

第3次豊川市食育推進計画（案）について

発言内容
・ 児童生徒の朝食の欠食率の結果から理由を検討していただき、取り組みとして具体的に考えていただきたい。 ・ アンケート調査の数値が下がっている理由の分析を行い、設定した目標を達成できるよう方策を練り、取り組んでいただきたい。
・ 朝食について、家庭ごとに違いがあると思うが、食欲がないことと時間がないことは、どの家庭でもあることだと感じる。お米と汁物とおかずを作ることは難しいが、パンだけでも簡単に食べさせていくことは、皆さんやっていると思う。 ・ 地産地消について、外国の製品だから悪いと決めるのではなく、私たちが食べているもので世界がつながっているという視点が必要であると思う。 ・ 体験活動で米作りをよく行うが、お米を作る過程を学ぶことも大切であり、お米を作ってからさらに理科や家庭科学習につながるような体験活動が必要である。
・ 学校で食育を進めているが、今回挙げられた課題を踏まえながら、カリキュラムなどを考えていくことも必要であると思う。
・ 食育推進計画における歯科に関する記述としては、十分記述されていると思う。
・ 行政だけでなく、様々な機関との連携が必要であり、市民に広げていくには協働が重要である。協働のやり方を考えていくことが必要であると思う。
・ 市内でも豊川産の野菜など購入できる店舗は数多くある。それらの店舗で豊川産であることを発信してもらい、市民の方がそれを意識して野菜などを購入し、食してもらえるようになると良い。
・ 市内で子ども食堂が2ヶ所あるのだが、親子で来る方もいたり、食事の提供に留まらない様々な効果があるのではと感じている。
・ 「市民協働」や「協働」の表現は様々あると思うが、市民に分かりやすい言葉による表記であれば問題ないと思う。
・ 協働する相手が問題となる。市の組織や組合を利用して、食育の観点から何か行ってもらえるよう働きかけていくことが必要である。 ・ 高齢者と子ども、孫を組み合わせた取組を考えると計画の内容が実現できると思う。
・ それぞれのページで SDGs のアイコンがあるが、「第1章の「2 計画の位置付け」」に記載はあるが、体系図においても SDGs の位置付けの表記を加えるとわかりやすいと思う。
・ 数値目標の数値を達成した時に豊川市民の方々が、どう変わっていくのか考えながら、行政と市民が協働して、進めなければならないと思う。